

令和 8 年 2 月 17 日

裾野市長 村 田 悠 様

裾野市環境審議会

会 長 竹 口 昌 之

### 第 3 次裾野市環境基本計画の策定について(答申)

令和 7 年 6 月 5 日付け裾市生第40号にて諮問のあった第 3 次裾野市環境基本計画の策定について、当審議会は、裾野市の現状や課題を整理し、専門的見地や市民としての視点のもと、慎重に審議を重ねた結果、計画案は妥当であると認め、下記の意見を付して答申します。

#### 記

1. 本計画の望ましい環境像である「富士山のすその 水・緑・人の調和が未来を紡ぐまち」の実現に向け、市・市民・事業者・滞在者等の各主体が、本計画に掲げる取組みを能動的に実践するよう、裾野市ならではの特色ある施策展開に努めてください。
2. 裾野市の豊かな自然ときれいで良質な水環境を後世に継承していくため、自然の恵みや生物多様性の大切さについて学ぶ機会の充実に努めてください。
3. 裾野市のごみ量は年々減少傾向にあるものの、全国的に見れば、裾野市以上にごみ減量や資源化を達成している自治体もあることから、さらなるごみ減量、リユース、リサイクルを推進して、環境負荷の少ない循環型社会の構築に努めてください。
4. 2050 年カーボンニュートラルは、裾野市のみならず、日本を含む世界的な共通目標ですが、地域によって産業構造も異なることから、基礎自治体だけで実現することの困難さを覚えます。地球温暖化の緩和策として、市民一人ひとりや事業者に対して省エネルギーや再生可能エネルギーの活用などの行動変容を促すとともに、インフラ、健康福祉、産業などの総合的な気候変動適応策にも努めてください。